

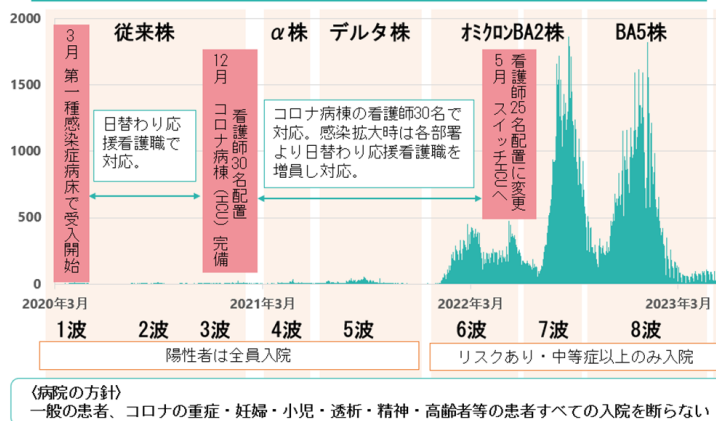
# 新興感染症に対応可能な看護体制の構築 —SUB ICNを導入して—

2020年3月～新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ開始。**感染拡大によりマンパワー不足が生じ、各部署より日替わり応援看護職を増員して対応。**

**応援看護職が日々入れ替わり、業務が煩雑化**

- ・コロナ病棟看護師は、応援看護師への防護具着脱指導等に時間がかかり、業務がすまさない
- ・応援看護職は、慣れない環境でストレスフル
- ・医師は、指示を出してもなかなか理解してもらえないと訴える
- ・感染管理認定看護師は、応援看護職の指導や夜間・休日の問い合わせで感染管理業務に支障をきたす

## 福井県のコロナ流行状況と当院の患者受け入れの推移



目的

**SUB ICN (Infection Control Nurse :感染制御看護師)の導入により、新興感染症に対応可能な看護体制を構築し、第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割を果たす**

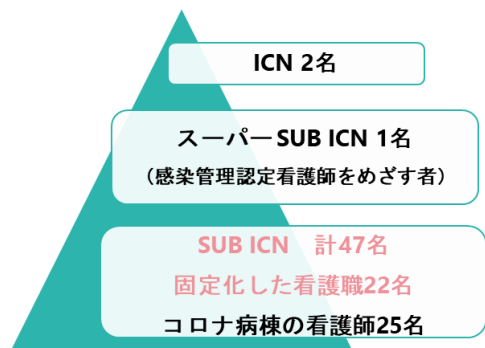
取り組み

2022年4月～2023年3月

- ① 各部署よりSUB ICNを1名ずつ選出(計22名)し、日替わり応援看護職を固定化する
- ② SUB ICNに辞令とバッジを付与し、役割意識を明確化する
- ③ 研修(年間カリキュラム)を実施し、SUB ICNの知識・技術の向上を図る

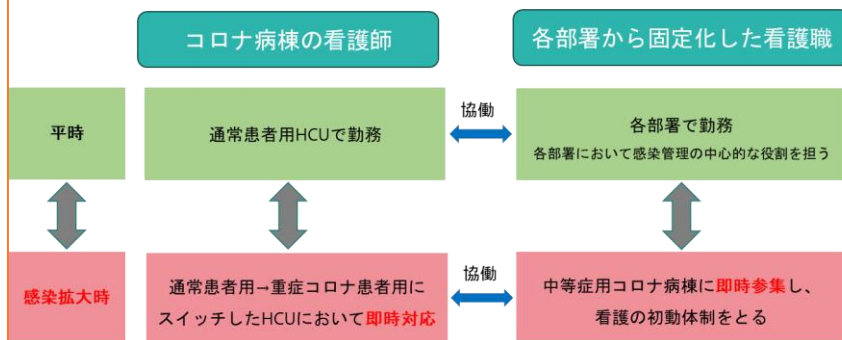


## SUB ICNの構成



## 新興感染症に対応可能な看護体制 (SUB ICNの機能)

コロナ病棟 (新興感染症専用病棟) を常設化し、必要となる病床数を確保するとともに、平時から各部署に看護職を加配し、新興感染症発生時にこれらの看護職を招集することにより、即時、感染症病床の看護に当たることのできる看護体制



成果

- ・防護具の着脱指導10～15分→研修で実施するので不要
- ・感染管理認定看護師への相談件数減少
- ・看護職同士の会話が増え、協働して業務を行うようになった
- ・個別性に合わせたケアの提供ができるようになった 例:終末期患者のガラス越し面会
- ・コロナ病棟看護師の職務満足度の向上
- ・日替わり応援看護職はメンタル不調により突然勤務変更することがあった→SUB ICN は0名
- ・医師からは優秀な看護職を配置してくれた、スムーズな診療ができるようになったと評価あり
- ・感染管理認定看護師をめざす看護師、2015年以降0名→3名
- ・申し送り時間約50分→30分に短縮
- ・休憩時間が確保できるようになった

展望

年度毎にSUB ICNの看護体制を再編成し、継続する  
SUB ICNが継続的に感染制御の知識・技術を維持・向上するための研修体制の充実  
新興・再興感染症に対応可能な新たな看護職の育成